

かゆい所に
手がとどく //

保育現場の超具体的安全戦略!

第8号

「登る」を防ぎ、 「落ちた時の危険」を減らす

落ちるを
防ぐのは難しい
だから...

2号にわたり、落ちた時の危険と「落ちる」を防ぐ難しさをお伝えしてきました。そこで今号は、「登る」と「地表面」の対策。どの危なさにはどの対策が効果的か、考える材料にしてください。

所 真里子

日本子ども学会常任理事、ISOガイド50(子どもの安全の指針)JIS原案作成委員会委員、保育の安全研究・教育センター設立メンバー。家政学修士(日本女子大学)。子どもの安全の専門家として研修講師、調査研究等を行っている。



登れない工夫をする

園庭にあるすべり台の階段や雲梯のはしごは、小さいお子さんも近づくことができ、気づくと登っていたりします。このような場合は、たとえばすべり台の階段やすべる側をタイヤのような重い物でふさぐ、雲梯のはしご等を古くなったバスマットで覆うといった方法で、登るのを防ぐことができます。

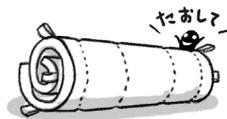


古タイヤなど

古いお風呂マットなど

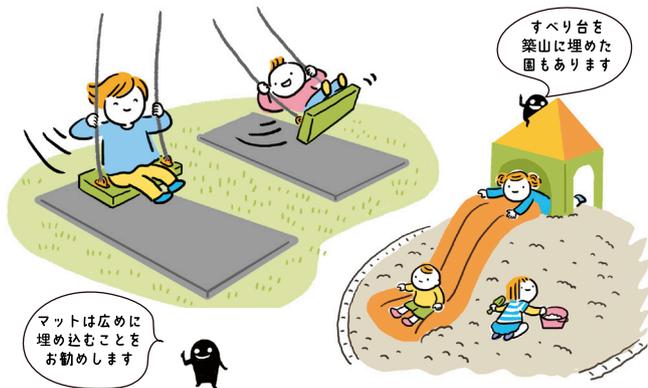
登れそうなものは横置きに

たとえば、体操用マットを巻いて立てておくと、子どもが登ろうとしてマットごと倒れたりマットの中に落ちたりすることもあります。片付ける時は横に倒しておきましょう。跳び箱は一番上まで積み上げておきます(6号の事例参照)。



地表面は衝撃を吸収する素材のものに

「遊具の安全に関する規準(JPFA-SP-S:2014)」によると、運動能力やバランス能力が求められる遊具を設置する場合、遊具から落ちた時の衝撃を吸収する素材(砂やウッドチップ、ラバーなど)を敷くことが望ましいとされています。屋内外を問わず、落ちる危険のある遊びをする場所には効果が数値で示された素材のマット等を埋め込みましょう。カタログに「HIC値(頭部傷害基準値)をクリアします」等の記載がありますので、取引業者に尋ねてください。また、これらの素材は使っているうちに劣化しますので、定期的に交換してください。



複数の子どもが落ちるのを防ぐ

タイヤ、平均台、一本橋など、高さのある場所を移動して遊んでいる時、子ども同士の距離が近いとどうなるでしょう? 一人がバランスを崩したら...、前の子を押ししたり、後ろの子にぶつかったりします。一人が落ちるだけでも十分危険ですが、複数の子が重なり合うように落ちるととても危険。前後の間隔を十分とりましょう。遊び方の側面からも、「落ちる時」の危険を減らすことはできます。



参考文献:「都市公園における遊具の安全確保に関する指針」(国土交通省、2014年)